

令和8年3月31日

福岡県糟屋郡久山町教育委員会
教育長 重松 宏明 様

学校法人東筑紫学園
九州栄養福祉大学こども教育学部
教授 脇田 哲郎

令和7年度「久山町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価」に係る意見書

「令和7年度『久山町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書』」の
第4「『令和7年度久山町教育振興計画』の基本目標に基づく主要施策について」に係る意見書を下記の
通り提出いたします。

記

1. 社会を生き抜く子どもを育てる【学校教育】の取組について

久山町教育委員会では、社会を生き抜く子供を育てるために、12の施策と37の具体的取組から評価を
行なっております。

【学校教育】 社会を生き抜く子供を育てる	<p>(1) <u>社会に必要な資質・能力の育成</u></p> <p>施策① 保育の質を大事にした幼児教育の推進 ア 豊かな体験活動の実施 イ 12年間で子どもをそだてる久山の教育を意識した保育活動の推進</p> <p>施策② 確かな学力の育成 ア 学力向上プランに基づいたPDCAサイクルの推進 イ 主体的な学びを実現する英語検定の実施 ウ タブレット端末を活用したICT教育の推進 エ 数学塾の実施 オ キッズニアの実施 カ 職員研修の推進 キ 家庭教育の手引き配布</p> <p>施策③ 体力の向上と食育の推進 ア 体力向上プラン「1校1取組」運動の実施 イ スポーツ推進委員、運動支援者との連携 ウ 家庭や関係機関と連携した食育の推進</p> <p>施策④ 道徳教育の推進 ア 学校における道徳教育の推進 イ 地域・家庭における道徳教育の推進 ウ 道徳講演会の実施</p> <p>施策⑤ 読書活動の推進 ア 学校図書館を活用した読書機会の充実 イ ブックツリー事業の推進 ウ 中学校リニューアル図書館の活用</p> <p>施策⑥ グローバル人材の育成 ア 1校に1人のALT配置 イ ALTを活用した課外活動の実施（触れる） ウ 英語を活用した体験の推進（親しむ） エ 英語学力を向上させる英語塾の実施（学ぶ）</p>
-------------------------	--

【学校教育】 社会を生き抜く子供を育てる	<p>(2) 多様なニーズに応じた体制づくり</p> <p>施策⑦ 特別支援教育の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 臨床心理士（特別支援教育相談員）の配置 イ 最適な就学の在り方について幼・保・小・中相互の連携と連絡会議の実施 ウ 町費負担学習支援員の配置 エ 特別支援教育に関する研修会の実施 <p>施策⑧ 教育相談体制（いじめ・不登校への対応）の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ア いじめ防止対策 イ 専門家による支援 ウ 不登校児童生徒への登校支援 <p>(3) 信頼される学校づくり</p> <p>施策⑨ 特色ある学校図書館作りの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 久山中学校図書館の整備 <p>施策⑩ 保護者や地域と連携して進める学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ア コミュニティ・スクールの推進 イ 地域学校協働本部との連携 <p>施策⑪ 教育施策の充実と学校安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 各学校・園施設の点検・整備・改修 イ ICT 支援員を活用した ICT 教育の推進 ウ 校区安全対策委員会の開催 <p>施策⑫ 働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進 イ 学校ごとに特色ある取組の設定と徹底
--------------------------------	--

表 1 【社会を生き抜く子どもを育てる 12 の施策と 37 の具体的な取組】

令和 7 年度は、「社会を生き抜く子どもを育てる」ために、昨年度の具体的取組から 3 つの取組が増加されました。このことから、久山町教育委員会が積極的に社会を生き抜く子供を育てる諸事務に取組まれたことが推察されます。その取組の内容について自己評価をしておられますので意見を申し上げます。

(1) 社会に必要な資質・能力の育成

施策① 幼児教育の推進

ア 豊かな生活体験の実施

幼児教育の基盤である「遊び」を通して、気付きや主体性、創造性や協働性を大切にした活動を実践したり、体験活動を中心にされたりしたことは効果的であったと考えます。また、研修の充実を図り職員の資質向上に取組まれたことも有効だったと考えます。

イ 12 年間で子供を育てる久山の教育を意識した保育活動の推進

年度末の教職員アンケートから、「身につけてほしい資質・能力」を評価しておられます。その結果、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した教師の割合が「自分なりに考えて行動できる」「自分の力を発揮できる」が共に 100%、「苦手なことに挑戦し最後までやり遂げようとする」「互いの思いや考えを共有できる」「自分とは異なる感じ方があることに気付く」が 92%と良好な状況だと評価されています。これらのことから、12 年間で子どもを育てる保育活動が推進されたと考えます。

施策② 確かな学力の育成

ア 学力向上プランに基づいた PDCA サイクルの推進

令和 7 年 4 月に行われた全国学力・学習状況調査では小中ともに良好な状況でした。このような状況が見られた背景には、山田小学校で、学力向上コーディネーター研修を 3 回実施し、学力向上プランを元に全国学力・学習状況調査や県学力調査の分析を行ったり次年度の授業づくりの方向性を検討したりしたこと。久原小学校でも、3 回の同研修を実施し、各学年で効果のあった取組みを共有し、次年度以降の具体的な取組みを共有したこと。久山中学校では、同研修会を 6 回実施し、全国学力・学習状況調査や県学力調査の分析や生徒アンケートの分析を行い、国語、数学の目標を達成したが、新たに C・D 層の生徒の増加などの課題が見えてきたこと。などの成果を挙げている。このように、学力向上プランに基づく PDCA サイクルが効果的に推進されたことが、小中の全国学力・学習状況調査の良好な結果に結びついたと考えます。

イ 主体的な学びを実現する英語検定の実施

英語検定に向けた環境整備が整い、英語の学習に意欲的に取り組むようになっていきます。その結果、準 2 級に 5 名、3 級に 18 名、4 級に 43 名、5 級に 91 名が合格しました。このことから、主体的な学びを実現する英語検定の実施状況は、概ね良好であったと考えます。

ウ タブレット端末等を活用した ICT 教育の推進

担当者研修会も 5 回実施され、電子黒板やタブレット端末、デジタル教科書、生成 AI の活用など ICT を活用した授業が効果的に行われています。学習状況調査では、ICT の活用に対する児童生徒の回答は、全国平均を下回っていますが、ただ使えばいいということではなく、久山町で共有されている「効果的な授業での活用」が重要なポイントだと考えます。そのためにも、そのことを全教職員で共通理解できるように、ICT 教育推進目標や具体的な授業像を明らかにしていけるといいのではないかと考えます。

また、教育委員会主催の ICT 活用能力を高めるコンテストなども効果をあげておられるようですので、今後一層の取組みの充実を期待します。このようなことから、タブレット端末等を活用した ICT 教育の推進は概ね良好な状況だと考えます。

エ 数学塾の実施

民間業者を活用した数学塾の効果は、期末考査等で顕著に表れています。一人当たりの経済的負担はどのくらいなのか評価表からは分かりませんが、今後は、入塾したくてもできない生徒の状況を詳細に把握し対応策を講じるなど、全ての生徒に公平に学びが保障されるようにしていくことも大切だと考えます。

オ キッズニアの実施

本内容は、民間業者を活用した小学 4 年生のキャリア教育だと考えます。小学校 1 年生から中学校 3 年生までに「一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容が学級活動(3)に位置付けてありますので、今後は、児童生徒に社会的、職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育てるために、体験的な活動も含めた意図的、計画的な取組みを期待します。

カ 職員研修の推進

小中学校の主題研修，一般研修の実施状況は良好です。研修の内容も，多岐に渡っています。また，教科等研修会への参加状況に比べ，福岡県教育センター専門研修への参加率が低下しているようですが，その原因を詳細に分析し，評価表にも書いておられるような具体的な対策を講じていかれることを期待します。

キ 家庭教育の手引き配布

家庭教育の手引きによって学習習慣や生活習慣の形成を各家庭に啓発されています。今後は，そのことで，どのような効果が見られたのかを評価されるといいでしょう。

施策③ 体力の向上と食育の推進

ア 体力向上プラン「1校1取組」運動の実施

小中学校で「ジャンプアップスポ魂」「運動大好き・体力アップ久原」「全力〇〇体育授業」などの1校1取組が行われています。その結果，中学校の男女の体力は向上していますが，小学校は伸び悩んでいるようです。この結果を，運動の習慣化を図る取組が必要と診断しておられるので，ぜひ，具体的な取組みを推進し小学生の体力向上へ結びつけてほしいと考えます。

イ スポーツ推進委員，運動支援者との連携

山田小学校で行われた体力テストにスポーツ推進委員 3 名が参加されました。次年度は，中学校を参考に計測の仕方などの事前指導を行い子供たちの実施能力の向上に努めたいということですので期待しています。

ウ 家庭や関係機関と連携した食育の推進

食育については，家庭科や技術・家庭科，体育科や保健体育科，学級活動(2)に食に関する指導の内容が示されています。特に，学級活動(2)の小学校エ，中学校オの「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」の内容で，発達の段階に即した系統的な取組みが実施されるようにされることが必要だと考えます。

施策④ 道徳教育の推進

ア 学校における道徳教育の推進

教育委員会作成の道徳に関するアンケートでは，個性の伸長や向上心，思いやり，寛容に関する道徳心の育成について 90%の児童生徒が肯定的な回答をしている。また，幼小中の教職員の学びを深めることもできている。このことから，道徳教育の推進は概ね良好な状況であると考えます。

イ 地域・家庭における道徳教育の推進

道徳推進委員会を 5 回開催し，組織的に推進されました。また，道徳推進運動 50 周年記念事業に向け各部会で積極的に審議が行われました。さらに，毎月のあいさつ運動や道徳カルタ大会なども盛大に開催されるなど，地域・家庭における道徳教育の推進は，適切に行われたと考えます。

ウ 道徳講演会の実施

東日本大震災で被災された、宮城県の元中学校長を講師に招聘された道徳記念講演会では、200名の町民が来場し、93%の満足度が得られました。このことから、道徳講演会の実施は良好であったと考えます。

施策⑤ 読書活動の推進

ア 学校図書館を活用した読書機会の充実

小学校の平均貸出冊数が小学校 90.6 冊、中学校が 11 冊であった。小学校は、80 冊の目標貸出冊数を超えましたが、中学校が 30 冊の目標に至りませんでした。今後、中学生の読書啓発をどのように図るのか、具体的な計画と実施が求められると考えます。

イ ブックツリー事業の推進（朝読書や読み聞かせの実施）

けやきの森幼稚園では担任や保育補助が読み聞かせ行ったり、山田小学校では、ボランティア団体の読み聞かせが年間 29 回も行われたり、久原小学校でもボランティア団体の読み聞かせや朝読書を継続して行ったりしています。このことから、ブックツリー事業は良好に推進されたと考えます。

施策⑥ グローバル人材の育成

ア 1校に1人のALT配置

小学校の3年生～6年生のALTとの学習に対する満足度は96.5%と高く、中学校でも87%という結果でした。また、英語で話すのは楽しいかという問いに対して、小学校は96%、中学校は90%が楽しいと答えています。このことから、1校に1人のALTの配置は効果的であると考えます。

イ ALTを活用した課外活動の実施

小学校のサマースクールや中学校のサマースクール参加者とALTによる英語絵本づくりなどで、高い満足度を得ています。このことから、ALTを活用した課外活動の実施は概ね良好だと考えます。

ウ 英語を活用した体験の推進

英語を活用した体験活動は、オンライン英会話だけだったのか他の体験活動もあったのかなど、具体的な実施状況を明記することで推進状況の評価が妥当なものになると考えます。

エ 英語学力を向上させる英語塾の実施

英語塾の入塾生に学習の成果が見られ、英語塾の実施は効果があるようです。ただ、学習機会の保障をすべての生徒にするという考えに立つならば、入塾したくても経済的な負担で入れない、家の仕事をしなければならないので入れないなど個別の理由があるはずで、その理由を詳細に把握した上で学習権の保障をここに考えていくことも肝要だと考えます。

(2) 多様なニーズに応じた体制づくり

施策⑦ 特別支援教育の環境整備

ア 臨床心理士（特別支援教育相談員）の配置

臨床心理士 3 名，スクールカウンセラー（以下，SC）1 名の配置によって，WISC 等の発達検査を 35 件実施することができました。また，臨床心理士が各学校に月 2 回訪問し児童生徒の観察を行っています。このようなことから臨床心理士の配置は適切に行われていると考えます。

イ 最適な就学のあり方について幼・保・小・中相互の連携と連絡会議の実施

年間 7 回の教育支援委員会を開催し，127 名の園児，児童生徒の望ましい学びの場について協議を深めることができました。また，幼少連絡会や小中連絡会で関係の幼児，児童生徒に関する情報交換が綿密に行われています。さらには，進学先の高等学校とも個別の教育支援計画の引き継ぎを行うなど，最適な修学のあり方に関する連携や連絡会議ができていると考えます。

ウ 町費負担学習支援員の配置

中学校 3 名，小学校 7 名の支援員を昨年度よりも多く配置し，支援を要する児童生徒への決めの細かい支援が行われています。

エ 特別支援教育に関する研修会の実施

コーディネーターによる研修会が幼稚園，小中学校で各 1 回ずつ実施されました。本研修会を実施することによってどのような効果があったのかを明記していただくとその効果が見えてくると思います。

施策⑧ 教育相談体制（いじめ・不登校への対応）の環境整備

ア いじめ防止対策

いじめ防止に向け小学校では「いじめ問題対策委員会」を，中学校では「いじめ問題対策委員会」を位置付け，積極的に情報の共有を図っています。中学校への「心の相談員」の配置は，相談回数の増加や相談員との繋がりづくりに結びついています。このことから，いじめ防止対策は適切に行われていると考えます。

イ 専門家による支援

SC の相談件数は，小学校 125 件，中学校 132 件と丁寧な支援が行われました。また，SSW の活用も積極的に行われています。このことから，専門家による支援も適切に行われていると考えます。

ウ 不登校児童生徒への登校支援

教育支援ルーム「ひまわりルーム」に 9 名の中学生が通室し，継続的な支援が行われ学校生活に前向きになっている生徒が増えてきています。このことから，不登校児童生徒への登校支援は適切に行われていると考えます。

(3) 信頼される学校づくり

施策⑨ 特色ある学校図書館づくりの推進

ア 久山中学校図書館の活用利用の促進

民間銀行を活用した「『久山中学校図書館』を考える研修会」を開催され、21名の中学生が参加し、異年齢の生徒が熱心に話し合い活動を行いました。話し合いで出された意見をもとに学校と連携しながら今後の取組みを進めていかれるそうですが、そのことが、図書館活用につながっていったのか次年度の報告が楽しみです。

イ 久山中学校図書館の地域への開放

祭り久山の開催を契機に、町民への図書館開放を行われました。その結果、特産物の販売や特別支援学級生徒の作品や育てたさつまいもの販売、図書館見学などで賑わったようです。今後は、町民の方が図書館に足を運ぶような企画を継続して取組まれることを期待します。

施策⑩ 保護者や地域と連携して進める学校づくり

ア コミュニティ・スクールの推進

小中学校とも、学校運営協議会の開催を契機に、地域の方から積極的に学校の取組みに対するご意見をもらうことができましたようです。コミュニティ・スクールの基本は「いい学校がいい地域を創り、いい地域が良い学校を創る」ことにあります。これまでのような、地域の方に学校が何かしてもらおうという発想ではなく、互恵的な関係が生まれるコミュニティ・スクールの推進に取り組まれることを期待します。

イ 地域学校協働本部との連携

小中学校への教育ボランティアの派遣が積極的に行われたことがよく分かります。今後は、そのことによって、地域にどのような効果が見られたのかという視点からの評価が行われると互恵的な関係が見えてくると思います。

施策⑪ 教育施策の充実と学校安全

ア 各学校・園施設の点検・整備・改修

山田小学校、久原小学校の体育館の空調設置工事は、福岡県でも最初の設備工事ということで他の自治体からも視察に来られるなど各学校・園の施設の点検・整備・改修は良好に行われたと考えます。

イ ICT 支援員を活用した ICT 教育の推進

ICT 支援員、教育委員会 ICT 担当者、指導主事と毎月定例会議を行い、町内の ICT 活用状況を把握されました。また、小中学校のタブレットの更新、電子黒板の配置、ICT 活用能力を高めるコンテストの実施など、ICT 支援員を活用した ICT 教育は良好に推進されたと考えます。

ウ 校区安全対策委員会の開催

山田小学校では、PTA や地元企業も参加する安全教育が評価され、文部科学省の「学校安全表彰」を受賞されました。久原小学校では、学校支援員、地域の方々、交通指導員の方々の協力を得て見守りが行わ

れました。中学校では、PTA の登校見守り、中学生の挨拶運動などが行われました。このようなことから、校区安全対策委員会は適切に開催されていると考えます。

施策⑫ 働き方改革の推進

ア 勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進

一月の残業時間平均が 17 時間 18 分と昨年度よりも減少しています。令和 8 年度は、教育職員に対する業務量管理、健康確保措置実施計画も策定されることになっています。このようなことから、勤務時間・健康管理を意識した働き方改革は適切に推進されたと考えます。

イ 学校ごとに特色ある取組の設定と徹底

本町の働き方改革推進の方策への満足度は 92.4%と高い評価を得ています。各学校でも、改善のための具体策を講じておられます。このようなことから、学校ごとに特色ある取組の設定と徹底は適切に行われたと考えます。

2. 学び合いやスポーツの機会を広げる【生涯学習・生涯スポーツ】

久山町教育委員会では、生涯学習・生涯スポーツについて表 2 に示す通り 5 つの施策に取組まれ、11 の具体的内容から評価を行なっておられます。

【生涯教育・生涯スポーツ】 学び合いやスポーツの機会を広げる	<p>(1) 学びの機会の充実</p> <p>施策① 生涯学習推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 生涯学習に関する研修会の実施 イ 分館活動の活性化の推進 <p>施策② 文化交流センター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ア レスポアール久山の利用促進・事業支援 イ 町民図書館の充実 <p>施策③ 社会教育施設回収事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 社会教育施設の計画的な改修 イ 社会教育施設の活用促進 <p>施策④ 青少年育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 地域アンビシャス運動の実施 イ 子ども会育成会活動の推進 ウ 青少年補導員による巡回パトロールの実施 <p>(2) スポーツ機会の充実</p> <p>施策⑤ 生涯スポーツ推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 各種スポーツ大会を通じた地域コミュニティの充実 イ 久山スポーツクラブの活動の推進
--	---

表 2 【学び合いやスポーツの機会を広げる施策と具体的な取組】

(1) 学びの機会の充実

施策① 生涯学習推進事業

ア 生涯学習に関する研修会の実施

福岡教育事務所社会教育主事を招聘した研修会では、参加者の満足度 89%になるなど、充実した研修会が行われました。このことから、生涯学習に関する研修会は、適切に実施されたと考えます。

イ 分館活動の活性化の推進

町内の 8 分館に助成金を交付し、全分館で地域アンビシャス運動が実施されました。年間 5 種類以上の多様な活動が行われ青少年の健全育成につながりました。このようなことから、分館活動は、適切に活性化されたと考えます。

施策② 文化交流センター事業

ア レスポアール久山の利用促進・事業支援

レスポアール久山の利用を促進するための主催事業として 13 の事業を開催されました。また、レスポアール久山塾など 19 の講座を開講したり季刊誌を発行したりするなどの取組を通して、年間 20 万人の来館者がありました。このようなことから、利用促進、事業支援は適切だったと考えます。

イ 町民図書館の充実

電子図書のコンテンツの充実を図られました。月平均の利用者数は 108 人、貸出冊数が月平均 480 冊と充実した利用状況になっています。子供が絵本に親しむ機会としての「ブックツリー事業」や「絵本大好き大作戦」などの取組みにも 150 名の親子が参加しました。このようなことから、町民図書館の充実に向けた取組みは適切であったと考えます。

施策③ 社会教育施設回収事業

ア 社会教育施設の計画的な改修

久山中グラウンドのナイター照明の LED 化やレスポアール久山の防災受信盤及び舞台装置のワイヤーロープの更新工事を行うなど社会教育施設の計画的な改修は適切に行われたと考えます。

イ 社会教育施設の活用促進

福岡久山相撲場やケイマンゴルフ場の利用者数は、昨年度よりも減少しているが 5,782 人でした。また、社会教育施設の年間利用者数は 32,000 人超の見込みであり、一般開放施設における予約システムの導入率は 100%を達成されています。このことから、社会教育施設の活用促進は適切に行われたと考えます。

施策④ 青少年育成事業

ア 地域アンビシャス運動の実施

久原小学校、山田小学校に開所したアンビシャス広場には、1,800 名の参加があり昨年度 1,700 名を上回りました。このことから、地域アンビシャス運動は適切に実施されたと考えます。

イ 子ども会育成会活動の推進

子ども会への加入率は 40%で昨年度よりも減少していますが、加入促進に向け「射的大会」や「道徳カルタ大会」、「映画上映会」などを開催したり計画したりしておられます。子ども会離れが進んでいる状況も見られますが、そのような中で熱心に推進されていると考えます。

ウ 青少年補導員による巡回パトロールの実施

青少年補導員研修会の開催や祇園祭後の補導巡回，トリアス久山の補導巡回，祭りひさやま終了後の補導巡回など積極的にパトロールを実施されていると考えます。

(2) スポーツ機会の充実

施策⑤ 生涯スポーツ推進事業

ア 各種スポーツ大会を通じた地域コミュニティの充実

久山スポーツフェスタや町民ソフトバレーボール大会など2回の町民スポーツ大会を開催されました。参加者の反応も良く，各種スポーツ大会を通じた地域コミュニティの充実は図られたのではないかと考えます。

イ 久山スポーツクラブの活動の推進

広報誌や行政無線を通じたスポーツクラブの会員募集で，本年度の久山スポーツクラブへの加入者は400名でした。このことから，久山スポーツクラブの活動推進は，概ね良好だったと考えます。

3. 町の文化を守り，育てる【文化振興，文化財保護】

久山町教育委員会では，文化財振興，文化財保護について表3に示す通り5つの施策に取組まれ，9の具体的内容から評価を行なっておられます。

【文化振興，文化財保護】 町の文化を守り，育てる	<p>(1) 首羅山遺跡など文化財の保存・活用</p> <p>施策① 首羅山遺跡保存・活用事業</p> <ul style="list-style-type: none">ア 首羅山遺跡の調査・史跡の整備・活用イ 学校教育との連携 <p>施策② 文化財保存・活用事業</p> <ul style="list-style-type: none">ア 町内文化財の調査・整備と活用促進イ 修羅山遺跡・山ノ神遺跡の発掘調査 <p>(2) 町民活動の支援</p> <p>施策③ 文化活動推進事業</p> <ul style="list-style-type: none">ア 文化協会の活動推進イ 文化活動の機会の創出 <p>施策④ 祭りひさやま事業</p> <ul style="list-style-type: none">ア 生涯フェスタ「祭りひさやま」開催支援 <p>施策⑤ ボランティア活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none">ア ボランティア活動の支援・協力
------------------------------------	---

表3 【町の文化を守り，育てる施策と具体的な取組】

(1) 首羅山遺跡など文化財の保存・活用

施策① 首羅山遺跡保存・活用事業

ア 首羅山遺跡の調査・史跡の整備・活用

首羅山移籍を訪れた人は29,099人であり、目標値を大きく超えています。本谷地区の一般公開を開始したことで、前年度よりも増加しました。このことから、首羅山遺跡の調査・史跡の整備・活用は、適切に行われたと考えます。

イ 学校教育との連携

山田小児童による絵本の作成や久山中生徒による絵本の英語科、久原小児童による末町歴史民俗資料館や宗像大島登山などが行われ、学校教育と充実した連携ができたと考えます。

施策② 文化財保存・活用事業

ア 町文化財の調査・整備と活用促進

伊勢の御田扇や上山田の盆綱引きの調査や整備が進み、町指定文化財への指定が進んでいることが分かります。

イ 修羅山遺跡・山ノ神遺跡の発掘調査

発掘調査の結果13世紀と考えられる建物の柱の抜き取り痕や基壇を囲む溝が見つかっています。山ノ神遺跡の発掘調査から、縄文時代晩期から江戸時代の遺物が出土しています。このことから、発掘調査は順調に行われていると考えます。

(2) 町民活動の支援

施策③ 文化活動推進事業

ア 文化協会の活動推進

久山町文化協会の創立30周年記念式典が開催されました。また、広報誌に「文化協会だより」を掲載し、所属サークルの紹介や協会の活動等を町民に発信もされました。このことから、文化協会の活動は適切に推進されていると考えます。

イ 文化活動の機会の創出

11月の「歌と踊りの祭典」や9月、12月、3月の「ロビー展示」、7月の「サマースクール」などの取組によって町民の文化活動への機会が創出されています。また、囲碁、将棋、茶道、健康麻雀、英会話の5つのサークルで文化交流部が設立されました。このようなことから、事業来場者は昨年度を超える14,654人となっています。このようなことから、文化活動の機会の創出は適切になされたと考えます。

施策④ 祭りひさやま事業

ア 生涯フェスタ「祭りひさやま」開催支援

10月5日の祭りひさやまには、8,300名の参加があり成功を取めておられます。このような結果の背景には、教育課職員の円滑な運営支援があります。このようなことから、祭りひさやまの開催支援は適切だったと考えます。

施策⑤ ボランティア活動の推進

ア ボランティア活動の支援・協力

昨年の135人から本年度は140の方がボランティア活動に参加されたり200人を超えるボランティアリストが作成されたりするなど、ボランティア活動の支援・協力は効果的に行われたと考えます。

4. 互いに認め合う【人権啓発、男女共同参画】

久山町教育委員会では、人権啓発・男女共同参画について表4に示す通り2つの施策に取組まれ、4つの具体的内容から評価を行なっておられます。

【人権啓発・男女共同参画】 互いに認め合う	(1) <u>人権教育や平和教育の推進</u> 施策① 人権教育の推進 ア 人権に関する教育及び研修の推進 イ 町民への人権啓発 施策② 平和教育の推進 ア 学校における平和教育の推進 イ 地域における平和教育の推進
--------------------------	--

表4 【互いに認め合う施策と具体的な取組】

(1) 人権教育や平和教育の推進

施策① 人権教育の推進

ア 人権に関する教育及び研修の推進

町学校人権教育実践交流会が開催され久山町教育長による講演が行われ、久山町学校人権教育全員研修会では、福岡教育事務所指導主事の講話が行われ、二つの研修会の参加者の満足度は90%を超えています。このことから、人権に関する教育及び研修の推進は適切だったと考えます。

イ 町民への人権啓発

人権を考える町民の集いで映画上映を実施し、93%の満足度が得られました。また、人権団体が主催する講演会にも137名の参加がありました。適切に人権啓発がなされていると考えます。

施策② 平和教育の推進

ア 学校における平和教育の推進

道徳科の授業や修学旅行などを通して、児童生徒への平和教育が行われています。平和に対する肯定的な数値は概ね良好だと思えます。今後は、児童生徒の具体的な考えなども同時に掲載していただけるとその効果がより分かりやすくなると考えます。

イ 地域における平和教育の推進

原爆パネル展や被爆者の方による講演などにより、地域における平和教育が推進されています。

児童生徒や町民が平和について考え、学ぶ環境づくりに積極的に取組まれたと考えます。ただ、児童生徒の平和に対する見方、考え方を形成していくためには、日常の生活の中にある友達や他の人々との関わりによって体験的に学ぶことも大切だと考えます。今後、平和教育でどのような資質・能力を育成すればいいのか研究を深められることも必要だと思えます。

以上、久山町教育委員会の令和7年度「久山町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について意見を述べさせていただきました。教育委員会の評価を見せていただきながら、久山町の教育委員会各課が、連携しあって懸命に努力されたことが理解できます。

昨年度に引き続いて評価をさせていただきましたが、各項目の評価を数値を用いて行うなど量的な評価が一層推進されており、取組みの効果が分かりやすくなっています。

今後は、なぜ、そのような数値結果が得られたのか具体的な取組み内容との関係を明らかにする質的な評価（児童生徒のエピソードなど）との組み合わせも検討していただいてはどうでしょうか。

また、児童生徒や地域住民、保護者等の意識調査から、対象者のニーズを明らかにして、それらの求めにどれだけ応えることができたのかなどの評価が示されてもいいと考えます。

今後は、いい地域がいい学校を創り、いい学校がいい地域を創ると言われるように、コミュニティスクールの方の更なる充実、発展を期待いたします。さらに、各課の取組みもこのCSの視点から整理していかれると、新しい時代に求められる教育の実現へと向かうのではないのでしょうか。

文責：学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 こども教育学部 教授 脇田哲郎